

**環境政策** 環境に配慮した産業の活気があふれ、国際貢献するまちをめざす

**【環境政策の目標】〔総合的目標〕**

地域環境や地球環境を保全するためには、環境負荷の低減に寄与する技術の開発や産業の振興が不可欠です。また、いずれの産業においても環境対策・環境配慮が行われ、環境の保全・創造を基調とする社会経済活動が営まれることが重要であり、これらの結果が地域経済の活性化や雇用創出につながるものが大切です。以上のような環境と経済の好循環の実現、都市と産業との共生に向けて、国内はもとより海外への技術移転や人の交流等を進めることで、環境技術による国際貢献を果たし、環境保全を支える産業と社会の活気があふれるまちをめざします。

総合的な評価に用いる指標

施策の方向	指標	総合的な評価に用いるもの
V-1 環境関連産業の振興・育成	低CO <sub>2</sub> 川崎ブランドの認定件数	○
	川崎国際環境技術展におけるビジネスマッチング数	○
	かわさきグリーンイノベーションクラスタの会員数	○
V-2 環境技術による国際貢献の推進	海外からの環境技術視察・研修の受入人数	○
	環境に係る国際会議・イベント等実施状況	
	環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容	○

**施策の方向 V-1 環境関連産業の振興・育成**

指標	目標・現状・指標がめざす方向
低CO <sub>2</sub> 川崎ブランドの認定件数	【基準年度】47件（2013年度）※1 【指標がめざす方向】多いほうが良い
川崎国際環境技術展におけるビジネスマッチング数	【基準年度】380件（2014年度）※2 【指標がめざす方向】多いほうが良い
かわさきグリーンイノベーションクラスタの会員数	【基準年度】37社（2015年度）※3 【指標がめざす方向】多いほうが良い

※1 2014年度実績から指標に追加したため、その前年度の2013年度を基準年度としています。

※2 2015年度実績から指標に追加したため、実績が確定している年度を基準年度としています。

※3 2016年度実績から指標に追加したため、実績が確定している年度を基準年度としています。

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：低CO <sub>2</sub> 川崎ブランドの認定件数 ・累計認定数 105件（対前年度：8件増加、対基準年度：多い）	5*	4
■指標：川崎国際環境技術展におけるビジネスマッチング数 ・件数 110件（対前年度：472件減少、対基準年度：少ない）	1*	
■指標：かわさきグリーンイノベーションクラスタの会員数 ・会員数 123社（対前年度：26社増加、対基準年度：多い）	5*	

[方向評価は「\*」の付いた指標評価の平均値をもとに評価しています]

【低CO<sub>2</sub>川崎ブランドの認定件数】

(単位：件)

	年度									
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
実績				55	65	70	76	85	97	105

【川崎国際環境技術展におけるビジネスマッチング数】

(単位：件)

	年度									
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
実績					426	615	667	780	562	110

【かわさきグリーンイノベーションクラスタの会員数】

(単位：件)

	年度									
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
実績						47	63	76	97	123

現 状

■低CO<sub>2</sub>川崎ブランドの認定件数

低炭素社会の構築につながるものづくり等を応援するため、ライフサイクル全体でCO<sub>2</sub>削減に貢献している川崎発の製品・技術等を評価し広く普及する「低CO<sub>2</sub>川崎ブランド」を2009年度から試行的に実施し、2012年度から本格実施しています。

2020年度は、8件の製品・技術等を「低CO<sub>2</sub>川崎ブランド」として認定するとともに、特に優れたものを「低CO<sub>2</sub>川崎ブランド大賞」として選定し、川崎国際環境技術展などを通じて広報を行いました。

■川崎国際環境技術展におけるビジネスマッチング数

環境分野における優れた技術やノウハウを国内外に広く情報発信し、参加者の市場開拓や販路拡大、新たな人脈形成に繋がる交流の場を提供する「川崎国際環境技術展」を2009年から開催しています。

2020年度は、初のオンライン展示会として2021年1月21日から2月5日まで開催し、136団体の出展がありました。中国・インド等の海外関係者約22人を含め、6,833回のログインがありました。

■かわさきグリーンイノベーションクラスタの会員数

2015年4月より産学官民の連携によって環境改善に取り組み、産業振興と国際貢献を推進して新たな社会の形成を目指すネットワーク「かわさきグリーンイノベーションクラスタ」を運営しています。

2020年度は新たに26社が会員となり、123会員となりました。

**施策の方向 V-2 環境技術による国際貢献の推進**

指標	目標・現状・指標がめざす方向
海外からの環境技術視察・研修の受入人数	【目標】現状より増やすこと 【基準年度】1,143人(2009年度) 【指標がめざす方向】多いほうが良い
環境に係る国際会議・イベント等実施状況	【基準年度】国際環境技術展2010の開催ほか(2009年度) 【指標がめざす方向】多いほうが良い
環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容	【基準年度】環境技術産学公民連携公募型共同研究数(累積) :12件ほか(2009年度) 【指標がめざす方向】多いほうが良い

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
<b>■指標：海外からの環境技術視察・研修の受入人数</b> ・受入人数61人(エコタウン施設0、その他61人) (対前年度：801人減少、対基準年度：少ない)	1*	3
<b>■指標：環境に係る国際会議・イベント等実施状況</b> ・第13回国際環境技術展等を2回開催(対前年度：増減なし、対基準年度：多い)	4.5	
<b>■指標：環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容</b> ・累計件数73件：オフィス空調の省エネに貢献する調光ガラス開発ほか (対前年度：4件増加、対基準年度：多い)	5*	

[方向評価は「\*」の付いた指標評価の平均値をもとに評価しています]

**【海外からの環境技術視察・研修の受入人数】(重点目標・指標)** (単位：人)

	年度									
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
実績	842	534	774	689	846	930	1,071	918	862	61

**【環境に係る国際会議・イベント等実施状況】(重点目標・指標)** (単位：回)

	年度									
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
実績	1	1	1	4	2	2	2	2	2	2

**【環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容】(重点目標・指標)** (単位：件)

	年度									
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
実績	25	31	38	45	51	55	61	66	69	73

## 現 状

### ■海外からの環境技術視察・研修の受入人数

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、エコタウンへの視察希望者の受入を休止
- インドネシア、ミャンマー、バングラディシュ、ネパール等のオンライン研修受入（60人）

### ■環境に係る国際会議・イベント等実施状況

- 第13回川崎国際環境技術展（オンライン開催）
  - ・優れた環境技術等を有する136団体が出展
  - ・中国・インド等の海外来場者約22人を含む約6,833回のログイン
  - ・優れた環境技術の海外への移転に向けた海外企業と出展者とのビジネスマッチングを実施
- 第17回川崎国際エコビジネスフォーラム
  - ・市内企業の優れた環境技術や国内外の先進的な環境技術や環境への取組についての情報交換及び参加都市間との信頼関係の醸成を目的に開催（延べ456人が視聴）

### ■環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容

2020年度の共同研究実施件数は6件、実施内容としては次のとおりです。

- オフィスの空調の省エネに貢献する調光ガラス開発
- マイクロプラスチック排出量評価技術の開発
- 湖沼等の閉鎖性水域における水質改善に関する技術実証
- 複合発酵を利用した廃プラスチック減容化技術の開発
- 溶融噴射式遮熱塗料の効果検証
- ガス発生を伴う屋内・屋外作業が大気環境／作業環境に及ぼす影響についての調査研究